

2020(令和2)年5月20日

日本産婦人科・新生児血液学会
理事長 安達 知子

産婦人科医のみなさんへ

新型コロナウイルス感染の妊産婦に対しては、血栓塞栓症の発症に注意する必要があります。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)において、海外から「重症例では血中D-dimer値(血栓塞栓症で上昇する検査項目)が高値を示す」あるいは「重症例では血栓塞栓症(深部静脈血栓症ならびに肺塞栓症)を合併しやすい」と報告されています。(COVID-19の妊産婦での同様の報告は現時点ではまだありません。)

妊産婦は、もともと血液が固まりやすくなっており、血栓症の発症しやすい状況にあります。それに加えて、妊娠悪阻(つわり)による脱水や切迫早産などでの長期安静(臥床)によって、さらに血栓塞栓症が発症しやすくなります。もし、COVID-19が重症化した場合には、肺炎による呼吸不全の治療のためさらに安静(臥床)が必要になり、血栓塞栓症を合併するリスクは高くなると考えられます。

分娩後は妊娠中に比べ、さらに帝王切開では経膈分娩に比べ血栓塞栓症が5~20倍発症しやすくなります。COVID-19の妊産婦の分娩方法は、経膈分娩では分娩時間が長くなることと共に、陣痛発作時の怒責(いきみ)の際の呼吸でエアロゾル(ウイルスが空气中を霧のように浮遊する状態)が起こりやすいため、院内感染防止の観点から、帝王切開での分娩を実施する施設もあります。したがって、帝王切開での分娩となりますと、さらに血栓塞栓症を合併するリスクが高くなると考えられます。

COVID-19によってすでに呼吸機能が低下している上に、血栓塞栓症、特に肺塞栓症を発症すると死亡に至る危険性が高くなります。

海外でもCOVID-19の妊産婦に関する報告はまだ少なく、わが国では海外に比べさらに報告が少ないですが、COVID-19の妊産婦に対しては、血栓塞栓症の発症に注意する必要があります。

(参考資料)

- 「COVID-19 感染と血栓塞栓症」については、「日本血栓止血学会」ならびに「肺塞栓症研究会」ホームページ
http://www.jsth.org/wordpress/wp-content/uploads/2020/05/20200513_1.pdf
http://www.jsth.org/wordpress/wp-content/uploads/2020/05/20200513_2.pdf
http://www.ja-sper.org/ja/file/pdf/coronavirus_prevention.pdf

(上記の1番目と2番目は日本血栓止血学会、3番目は肺塞栓症研究会、の各ホームページに掲載)

- 「COVID-19の妊産婦の分娩方法」については、「日本産婦人科医会」ホームページ
<https://www.jaog.or.jp/wp/wp-content/uploads/2020/04/200406.pdf>
- 「妊娠と血栓症」については、「日本産婦人科・新生児血液学会」ホームページ
<http://www.jsognh.jp/common/files/qa/1-2-4t01.pdf>
<http://www.jsognh.jp/common/files/qa/1-3-2t01.pdf>